

1 人吉市まちなかグランドデザイン

対象地域

中心市街地地区、青井地区、麓・老神地区
～3地区が連携したまちなかの将来ビジョン～

中心市街地地区、青井地区、麓・老神地区は、人吉市の中心地（まちなか）を形成しており、特色ある歴史文化資源等を有しています。

人吉の大きな魅力である相良700年の歴史とともに育んできた「多様な文化」や、「美しい球磨川・盆地」の豊かな自然を活かしながら、来訪者含めた賑わい形成や、水害を乗り越え「安全・安心」な暮らし方につなげる、「持続可能な地域づくり」に取り組んでいきます。

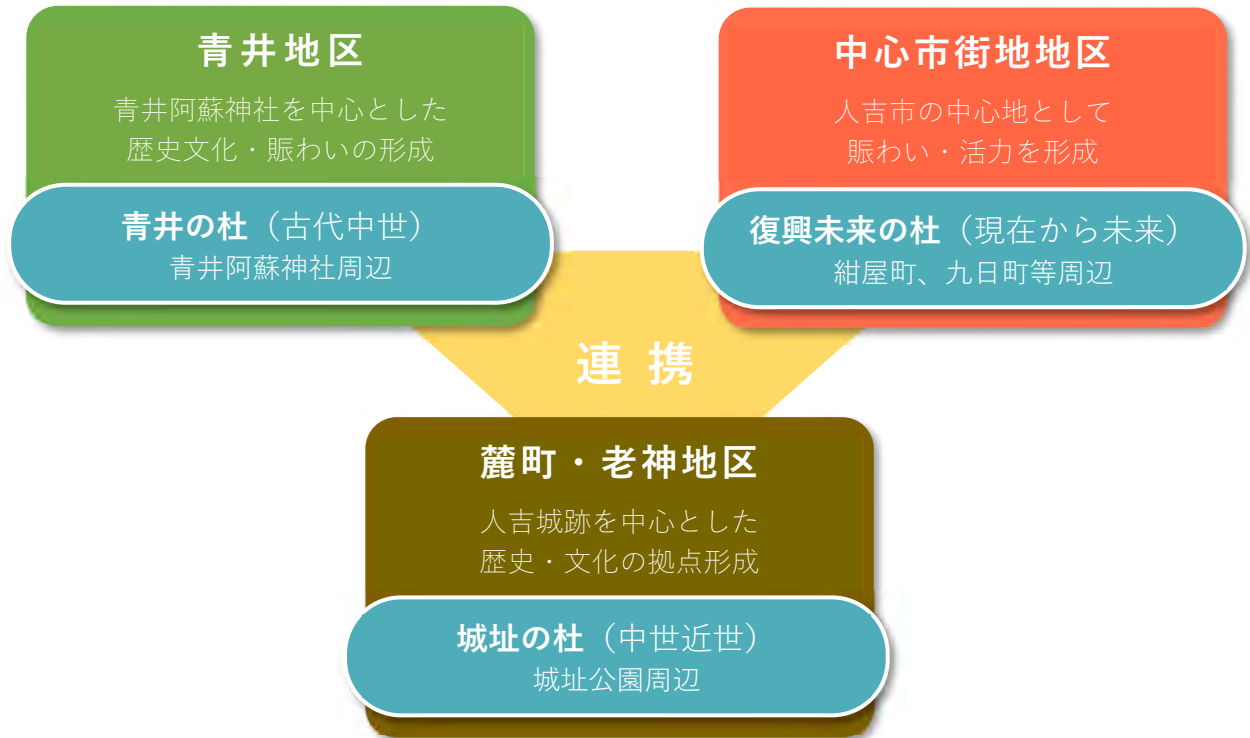


3つの柱が調和・連携し復興まちづくりを推進

- ※1 将来起こるかもしれない水害等の自然災害に対し、事前に備え、柔軟に対応するという意味を込めて「しなやかに」という言葉を用いています。
- ※2 城下町の歴史がある人吉市のまちなかにおいては、歩きやすい道幅や圧迫感のない建物の高さ等に人々の居心地の良さに配慮し、「人間が心地良さを感ずる尺度」を大切にします。

また、各地区の特性を最大限に活かし、人吉らしさや賑わいを発信する集客拠点「3つの杜」の形成と回遊促進を図り、それぞれの拠点が連携してまちなか全体の活性化につながるよう、復興まちづくりを推進していきます。

■ 3地区の連携と未来型復興を先導する「3つの杜」



人吉市まちなかグランドデザイン

■人吉の歴史を語り継ぎ明るい未来を創る3つの柱

● 青井の社（古代中世）、城址の社（中世近世）、復興未来の社（現在から未来）

■賑わい・交流・回遊を促進する軸

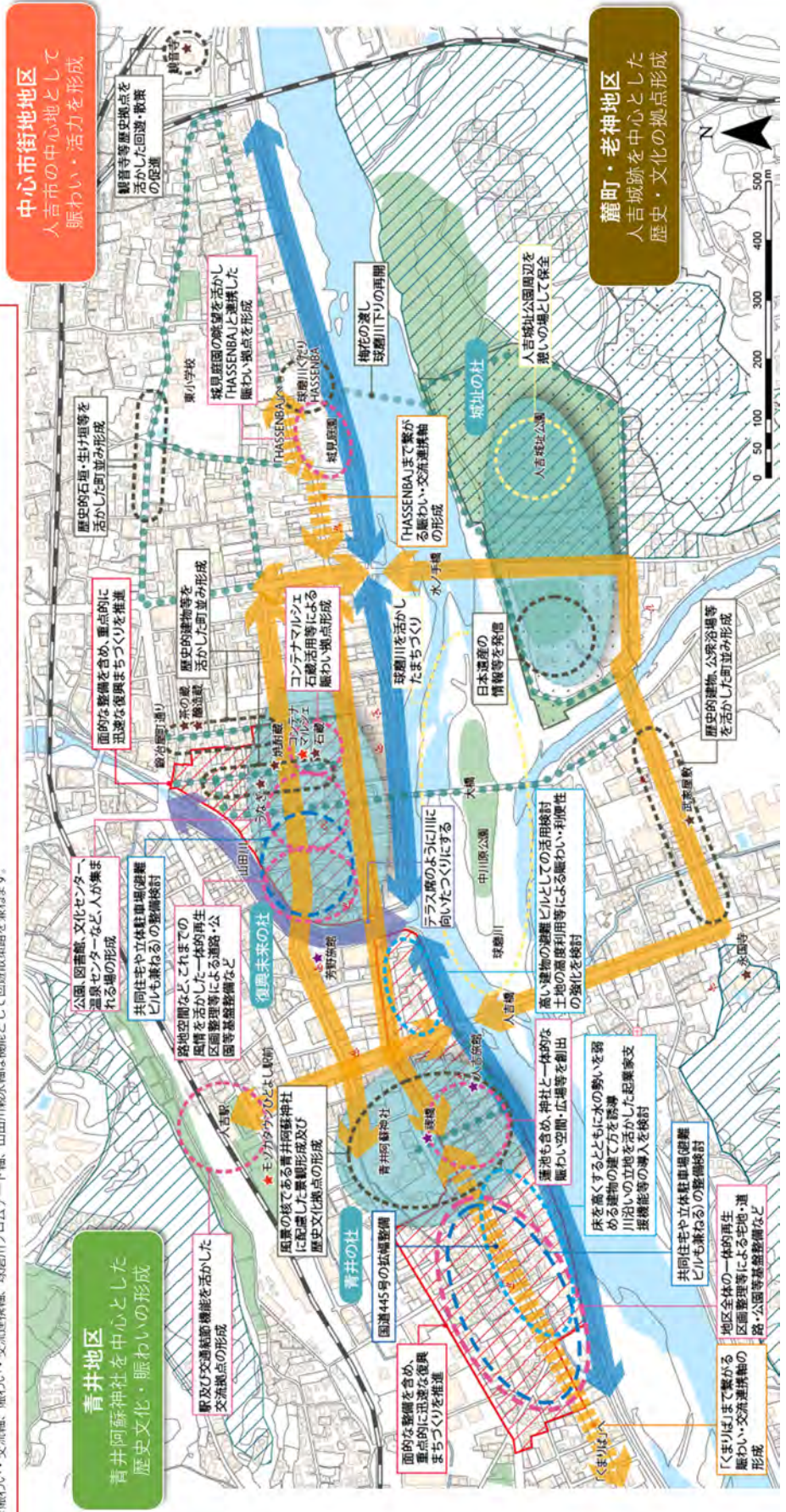
- 賑わい・交流軸
3つの社を連携する、賑わい・交流を促進する軸の形成
- 賑わい・交流連携軸
周辺の拠点と連携する、賑わい・交流軸の形成
- 球磨川プロムナード軸
球磨川の魅力を活かした親水空間の形成
- 山田川親水軸
山田川の魅力を活かした親水空間の形成
- 回遊散策路
人吉の魅力を楽しめる散策コースの形成

※賑わい・交流軸、賑わい・交流連携軸、球磨川プロムナード軸、山田川親水軸は機能として回遊散策路を兼ねます。

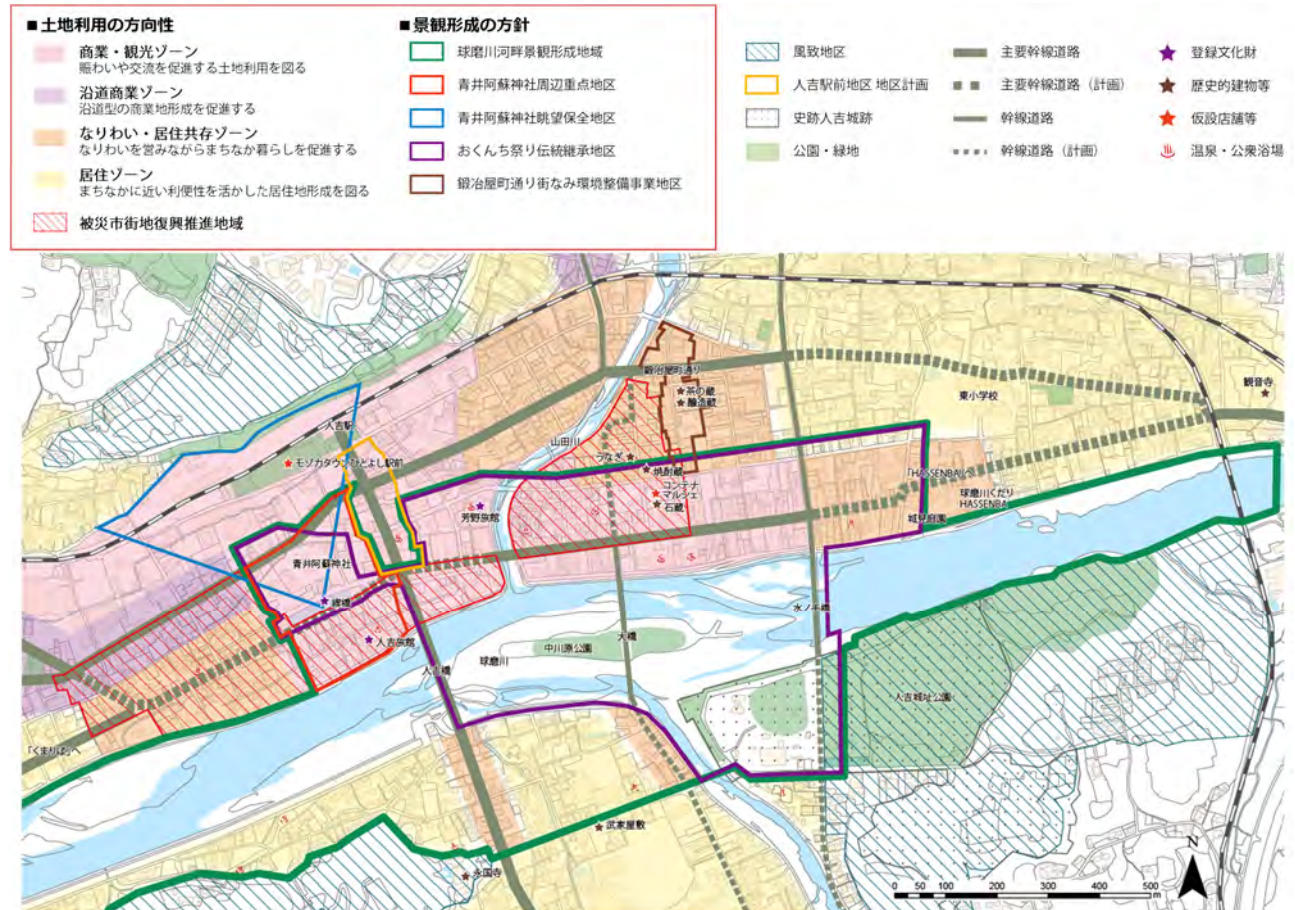
■取組の推進ゾーン

- 人が集い賑わう交流拠点の形成
- 歴史・文化資源を活かした拠点の形成
- 自然環境等を活かし、潤いを感じ憩える拠点の形成
- 避難場所も兼ねたままな居住の拠点の形成
- 川沿いの環境を活かした創造・交流を促進する拠点の形成
- 被災市街地復興推進地域

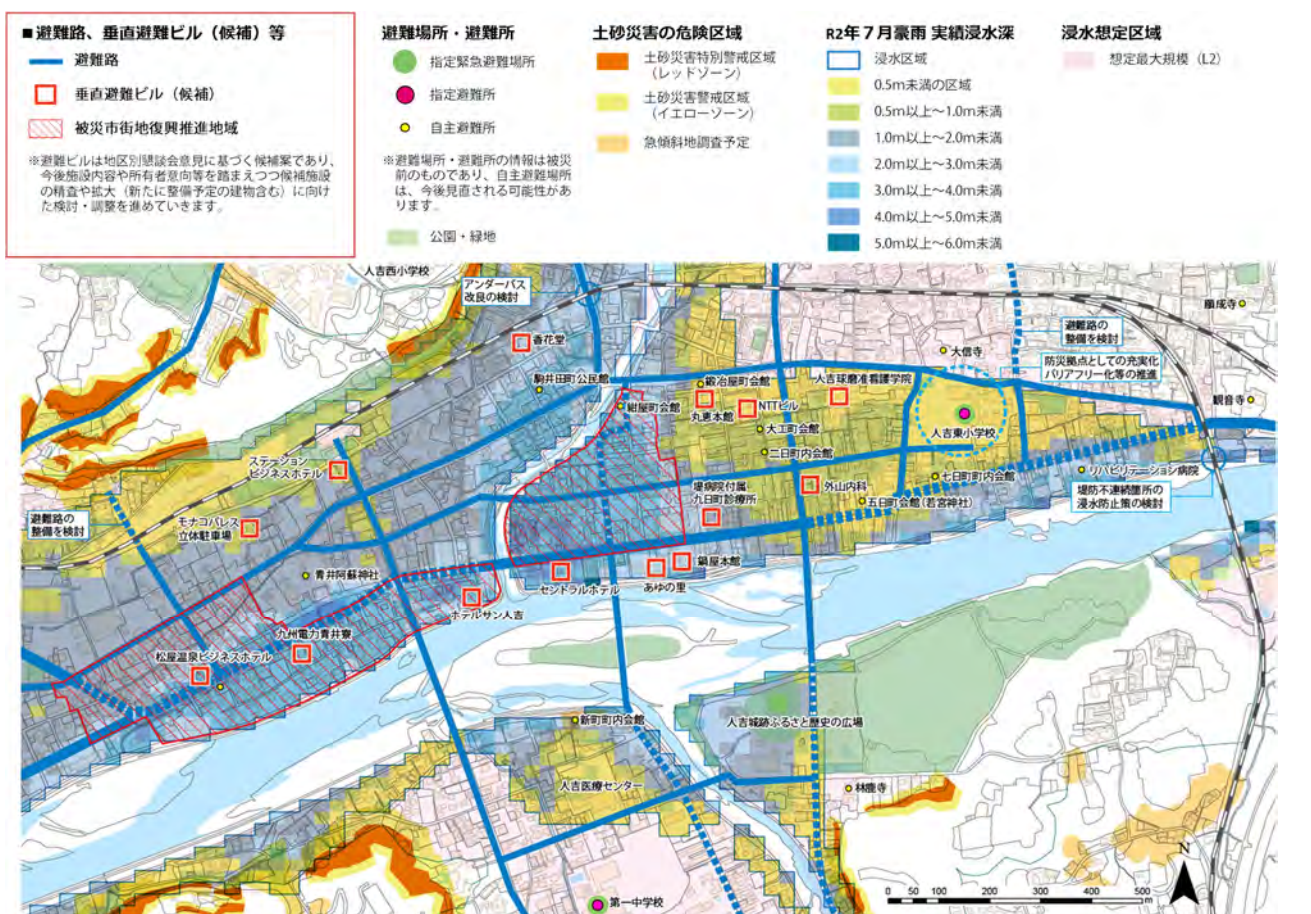
- 風致地区
- 公園・緑地
- 史跡人吉城跡
- 登録文化財
- 歴史的建物等
- 仮設店舗等
- 温泉・公衆浴場



（参考1）都市構造・土地利用・景観形成の考え方



（参考2）防災・安全性向上の考え方



2 各地区の復興まちづくり計画

① 中心市街地地区 復興まちづくり計画

対象地域

九日町、七日町、五日町、二日町、鍛冶屋町、大工町、紺屋町、上新町、下新町、鶴田町、北泉田町、南泉田町

中心市街地地区は、人吉市の中心地として、賑わい・活力を形成するため、くらしの再建やコミュニティの再生、避難対策とともに、「人吉らしさ」「各町の特性」を活かした復興まちづくりを進めます。

(1) 地区の復興まちづくりに向けた主な課題

取組の柱① 被災者のくらし再建とコミュニティの再生

住まいの再建

□住まいの再建と安全性の向上

○被害の大きい地区では、今後の災害に備えた再建場所や再建方法の検討が必要です。

地区別懇談会での主な意見

- ・残っている建物の耐震性もチェックする必要がある。
- ・再び浸水しないか不安だが土地は手放したくない。
- ・再建はしたいが高齢である。

コミュニティの再生

□地域コミュニティの再生

○各町内では、各世帯の状況把握や被災した集会所等の活動拠点の再建が必要です。

取組の柱② 力強い地域経済の再生

なりわいの再建

□なりわいの再建と中心市街地の再生

○被災した店舗等の再建にあたり、中心市街地全体の活性化の取組やまちづくりの方針との連携が求められています。

地区別懇談会での主な意見

- ・資金面、まちの状況等で再建を悩んでいる方がいる。
- ・コロナ禍以前からまちなかの地価が下落している。
- ・まちづくりの方針が分からないとなりわいの再建ができない。
- ・イベント時だけでなく、平常時の持続可能な賑わいが重要。

取組の柱③ 災害に負けないまちづくり

避難対策

□避難のタイミングの判断の検討

- 想定外の災害を体験し、災害リスクの再確認や、いつ・どんな避難行動をとるか等を再検討する必要があります。

□安全な避難ルートの確保

- 地区内の道路状況や浸水履歴、車での避難による渋滞等も考慮した、安全な避難ルートの確保が必要です。

地区別懇談会での主な意見

- ・地区内には狭い道路や行き止まり等がある。
- ・令和2年7月豪雨の際は、避難所周辺の道路が冠水した。

□町単位の避難体制の構築

- 高齢者が多い地域のため、避難の徹底には隣近所の声掛けや要支援者の避難支援等が必要です。
- 夜の営業が多い地区の避難対策や、観光客・来街者への対応も検討しておく必要があります。

□緊急時に避難ができる場所の確保

- 指定緊急避難場所まで行けない場合や緊急に避難を要する場合等を想定し、命を守る避難場所の確保が必要です。
- 車が浸水すると、水が引いた後の活動が滞るため、車を避難させる場所や車で避難できる場所の確保が必要です。

地区別懇談会での主な意見

- ・避難所まで距離がある地域では、寝泊まりも可能な代替りの施設を確保したい。

□避難所機能の充実

- 人吉東小学校は避難スペースとなる体育館が2階にあるため、バリアフリー化が必要です。
- 避難可能なスペースを踏まえた感染症対策や運営体制の強化の取組も必要です。

治水・土砂災害対策

□治水対策の推進

- 球磨川本川の治水対策や、山田川等の支川のバックウォーターへの対策の推進により、災害リスクの軽減が必要です。

地区別懇談会での主な意見

- ・球磨川の水が濁ることでの魅力低下が心配。
- ・清流に戻す必要がある。復興のキーワードは川・自然。
- ・まちづくりと治水は同時進行なので随時情報提供を行う必要がある。

復興まちづくり

□地域性を活かした復興まちづくり

- 被災により失われた人吉らしさや各町の独自性をより明確にし、復興まちづくりに活かしていく必要があります。
- 一方で、水害前から衰退傾向にあったことを踏まえ、観光客の推移やまちの状況を再確認し、従前の中心市街地の課題も踏まえて今後のまちづくりを検討する必要があります。

地区別懇談会での主な意見

- ・従来の温かみのある人付き合いや横のつながりを大切にしていきたい。
- ・人口が減ってきているので、コンパクトなまちのあり方を検討する必要がある。
- ・“暮らしやすいまち”“歩いて楽しいまち”等まちづくりの方針が必要。
- ・住民、商人・事業者、観光客それぞれに良いまちを目指したい。
- ・人工的なものよりも、人間の本性に根付いた自然発生的なものを大切にしたい。
- ・これからは、商業と人と緑の調和で潤いのある場所にしたい。
- ・SDGsにあるような教育の充実したまちを目指したい。
- ・回遊性を生み、拡大することで賑わいが生まれ、店舗も増え、住民にとっても買い物しやすいまちになる。

□まちへの人口回復

- 被災により地区を離れている世帯が多く、まちへの人口回復を図る取組が必要です。
- ファミリー世帯が住める住宅の確保や、若い世代が来たくなる、住みたいと思えるまちにするための、まちづくりの仕掛けが必要です。

地区別懇談会での主な意見

- ・安心して住めるようにならないと、子どものいる世帯は住まないのでは。

□温泉文化を活かしたまちづくり

- 地域の重要な資源として、被災した温泉旅館や銭湯の再建を進め、温泉文化を復活し、再

発信していく必要があります。

地区別懇談会での主な意見

- ・昔は銭湯が100軒程あった。
- ・新温泉は地域住民、観光客ともに利用が多く、建物も趣があるため、今後の活用方策等を検討する必要がある。

□景観まちづくりへの積極的な取組

○現状では観光客が城下町らしさや温泉町の風情を感じにくいため、建物の再建や復興まちづくりに合わせて、景観まちづくりに積極的に取り組む必要があります。

□球磨川のまちづくりへの活用

○水害により球磨川の自然環境を活かした事業への影響が出ています。水害へのリスクと向き合いながら、球磨川を活かしたまちづくりに取り組む必要があります。

地区別懇談会での主な意見

- ・堆積土砂の影響で船が通れるルートが少なくなった。
- ・アユも取れなくなったと聞くため、観光への影響が心配である。
- ・中川原公園を撤去する・しないの議論があるが、中川原公園にも歴史があり、旅館からの風景は人吉らしさの要素の1つである。

□面的なまちづくりの必要性

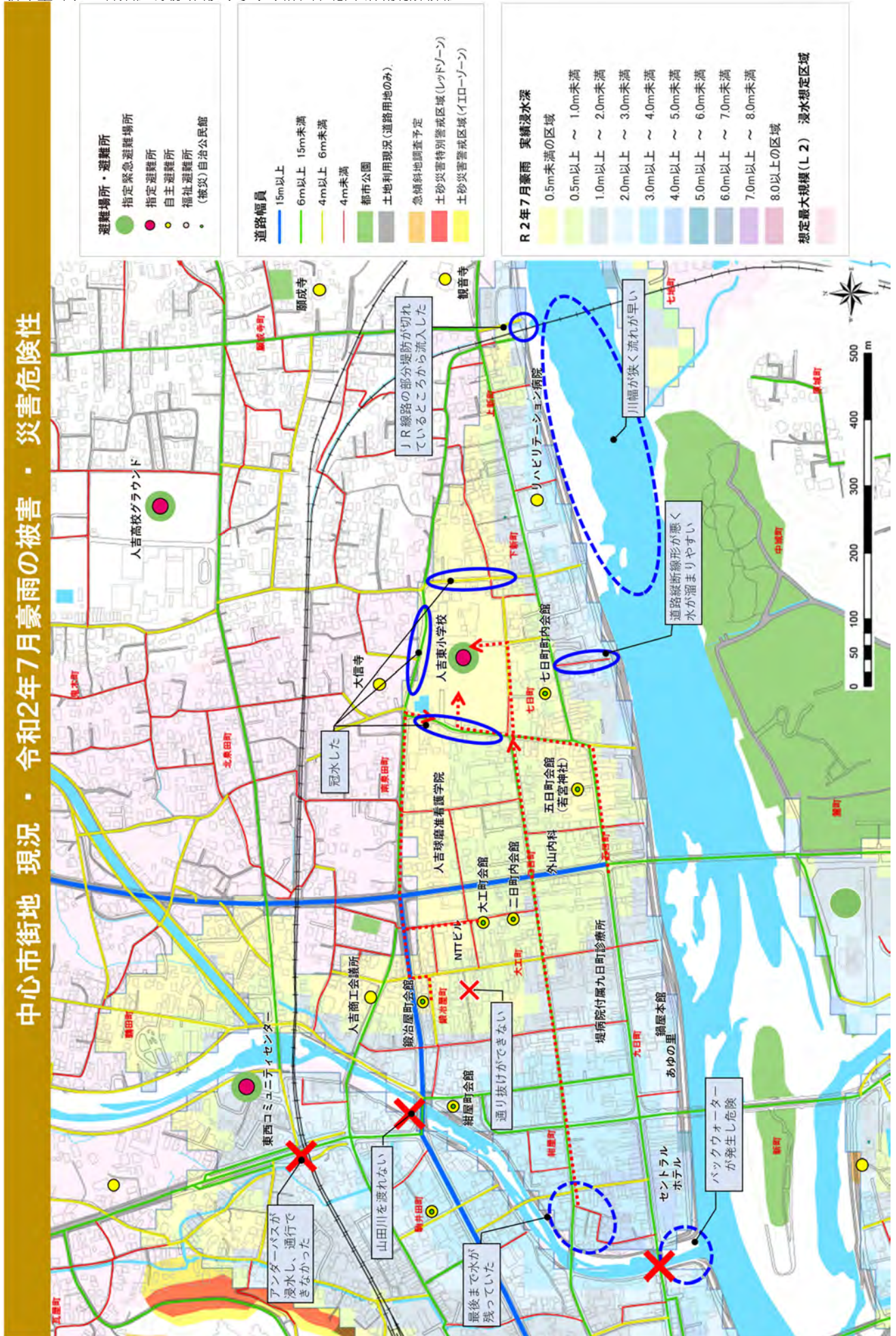
○被害が甚大な地区や敷地の間口や道路が狭い等、再建に課題がある地区においては、面的なまちづくり手法の導入も検討が必要です。

□空き地等の増大によるまちなか空洞化への対応

○人口や来街者、観光客等が減少し、空き地・空き家等が増大することにより、再建意欲の低下や地区の環境の悪化、経済活動の衰退等が懸念されます。空き地や空きテナント等を積極的に活用する仕組みづくりが必要です。

地区別懇談会での主な意見

- ・公費解体した跡地に植木やブロックが残り、見た目の印象が悪い。
- ・雑草が生い茂って放置されることがないよう管理していく必要がある。



（2）課題解決のための取組

【復興まちづくりの目標】

清流球磨川と人吉らしい歴史・文化とともに、若い力と賑わいに満ち、
 お年寄りから子どもまで安心して暮らせるまちなか

地区の主な課題	取組方針	具体の取組
住まいの再建と安全性の向上	安全な住まいの確保	<ul style="list-style-type: none"> 安全性を高める建て方の誘導 災害公営住宅等の導入検討
地域コミュニティの再生	コミュニティの拠点の再生	<ul style="list-style-type: none"> 町内会の集会所等の再建、公民館等の整備 町内会の連絡網の再整理
なりわいの再建と中心市街地の再生	中心市街地の再生に向けた環境づくり	<ul style="list-style-type: none"> 個々の事業所の再建支援 継続的な賑わい創出の取組
避難のタイミングの判断の検討	「安全な避難」のための「平常時の準備」	地域特性を踏まえたマイ・タイムライン、地区防災計画の作成
安全な避難ルート確保	安全な避難路の整備	地区内の主要道路・避難路の整備
町単位の避難体制の構築	地域性を踏まえた避難体制の構築	<ul style="list-style-type: none"> 防災情報の伝達機能の強化 自助共助の避難体制の構築 来街者・観光客の避難誘導対策 実践的な避難訓練の実施
緊急時に避難ができる場所の確保	複数の避難場所の確保	<ul style="list-style-type: none"> 垂直避難ができる避難場所の確保 車での避難場所（駐車スペース）の確保
避難所機能の充実	避難所の機能や利用環境の整備、運営体制の強化	<ul style="list-style-type: none"> 避難所の機能や利用環境の整備 避難所運営体制の強化
治水対策の推進	流域治水プロジェクトによる本川・支川の水位の低下	流域治水プロジェクトによる本川・支川の水位の低下
地域性を活かした復興まちづくり	地域が一体となった復興まちづくり方針の共有	「人吉市まちなかランドデザイン」に基づく地区間連携の強化
まちへの人口回復	まちなか居住の推進	災害公営住宅等の導入検討（再掲）
	複合的な交流の場づくり	複合的な交流施設の整備
温泉文化を活かしたまちづくり	温泉の復活と温泉文化の継承	温泉の活用方策の検討
景観まちづくりへの積極的な取組	人が集い、過ごす風景の再生	歴史的な建物や路地空間等を活かしたまちなみ形成
球磨川のまちづくりへの活用	球磨川を活かしたまちづくりの推進	球磨川を活かしたまちづくり
面的なまちづくりの必要性	面的なまちづくり方策の検討	面的なまちづくり手法の活用検討
空き地等の増大によるまちなか空洞化への対応	空き地の活用方策の検討	空き地の活用促進とマネジメント方策の検討

取組の柱① 被災者のくらし再建とコミュニティの再生

住まいの再建

取組方針1：安全な住まいの確保

地区の特性や治水対策の状況、復興まちづくりの状況を踏まえ、安全な場所での再建や、住まいの安全性を高める修復・再建方策等の選択肢を検討します。

具体の取組

□安全性を高める建て方の誘導

- ・建物1階のピロティ化、想定浸水深以上の居室確保。建物構造の耐水化。
- ・宅地の盛土。
- ・今後の住まいが決まっていない方や再建を迷う方への再建方策の提案。
- ・民地に適用できる地盤調査等に関する支援制度の活用。
- ・再建後に区画整理の対象になった場合の対策の提示。

□災害公営住宅等の導入検討

- ・中心市街地内外から移り住める災害公営住宅等の整備の検討。

コミュニティの再生

取組方針2：コミュニティの拠点の再生

町内会の寄り合い等、地域コミュニティを支える活動を行うための拠点の再建・修復等を行い、町内会を中心としたコミュニティの再生を図ります。

具体の取組

□町内会の集会所等の再建、公民館等の整備

- ・コミュニティ・避難施設としての公民館等の整備
- ・九日町には会館がないため、ビルの低層部等を活用し場所を確保。

□町内会の連絡網の再整理

取組の柱② 力強い地域経済の再生

なりわいの再建

取組方針3：中心市街地の再生に向けた環境づくり

各店舗等のなりわい再建に向けて、“帰ってきたい”“出店したい”と思えるまちなかの魅力や再生の方向性の共有が必要です。暮らしのベースとなる住まいの再建・誘導やまちづくりによる拠点性の向上、来街者の回遊性の向上等、人々が集まるための取組と連携し、中心市街地の再生に向けた環境づくりを進めていきます。

具体の取組

□個々の事業所の再建支援

- ・店舗の再建支援策の充実。
- ・すでに店をオープンしている事業主を盛り上げるような支援。
- ・市民みんなで地元の旅館を応援する、「旅館は地産地消」の推進。
- ・観光業従事者向けの寮を兼ねた集合住宅の整備。

□継続的な賑わい創出の取組

- ・コンテナマルシェ、石蔵活用等による賑わいの創出。
- ・コンテナマルシェで日常的に人の流れをつくる店舗経営への投資の検討。
- ・家賃を低廉化し若い人の商売を支援する仕組みの検討。
- ・球磨川プロムナード軸を活用した回遊、賑わいの創出。
- ・古く趣のある建物や緑地を結ぶ散策路の整備。
- ・「人吉ひかりの復興計画」と連携した夜の散策ルートの整備。

取組の柱③ 災害に負けないまちづくり

避難対策

取組方針4：「安全な避難」のための「平常時の準備」

「情報の入手方法」、「避難場所」、「避難方法」を状況別に検討し、「早めの避難」を徹底する方策を検討します。油断による避難の遅れを防ぐため、平常時からと災害時に災害の危険性を認識するための手段を整えます。

具体の取組

□地域特性を踏まえたマイ・タイムライン、地区防災計画の作成

- ・各世帯と町内会の動きを時系列に整理し、発災時に役立つ防災行動計画を立てる。

取組方針5：安全な避難路の整備

浸水しやすい箇所や避難の手段を考慮した避難ルートを検討や避難路の整備を行います。

具体の取組

地区内の主要道路・避難路の整備

- ・安全で円滑な避難を可能とする避難路の整備、避難経路の多重化。
- ・車両避難のため人吉高校までの避難ルートの確保。

取組方針6：地域性を踏まえた避難体制の構築

要支援者の避難支援体制を、地域ぐるみで構築します。また、夜の営業時間中も含めた来街者・観光客等の避難誘導等の対応策を検討します。

具体の取組

防災情報の伝達機能の強化

- ・各世帯への戸別受信機の配布、双方向の情報伝達ツールの確保。

自助共助の避難体制の構築

来街者・観光客の避難誘導対策

- ・店舗経営者への情報周知、戸別受信機の配備、エリアメールの活用等。

実践的な避難訓練の実施

- ・夜間や雨天等、実際に起こり得る状況を想定した避難訓練の実施。

取組方針7：複数の避難場所の確保

指定緊急避難場所の他、民間の施設や私有地も含めて、水害時の一時避難が可能な避難場所を複数確保します。併せて、車での避難方法についても整理します。

具体の取組

垂直避難ができる避難場所の確保

- ・高層階建物等への協力依頼、一時避難所協定等。
- ・立体駐車場の整備の推進。

車での避難場所（駐車スペース）の確保

- ・車で避難する場合は人吉高校への避難を誘導。※要支援者の同行避難は除く。

取組方針 8：避難所の機能や利用環境の整備、運営体制の強化

災害の教訓を踏まえ、避難所の機能や利用環境の整備、運営体制の強化等に取り組みます。

具体の取組

□避難所の機能や利用環境の整備

- ・避難所施設のバリアフリー化（東小学校体育館等）。
- ・情報伝達機能の整備
- ・備蓄品の充実。
- ・避難スペースや備蓄スペースの確保。
- ・避難スペースや受入可能人数を考慮した避難所へ携行する私物の内容の検討。

□避難所運営体制の強化

- ・炊き出しや感染症対策等の運営体制の強化。

治水・土砂災害対策

取組方針 9：流域治水プロジェクトによる本川・支川の水位の低下

広域的な流域治水プロジェクトと連携し、水位低下への段階的な対策の検討を行います。水辺の景観に留意した堤防のあり方等、まちの風情に適した安全確保の方策を検討します。

具体の取組

□流域治水プロジェクトによる本川・支川の水位の低下

- ・流域治水プロジェクトの推進による堆積土砂の撤去、河川掘削、堤防の強化等。
- ・支流の堤防の強化（山田川、鬼木川）。

復興まちづくり

取組方針 10：地域が一体となった復興まちづくり方針の共有

地域が一体となって、人吉らしい復興まちづくりに取り組み、良好な市街地環境の形成とくらしの再建に取り組むため、まちの将来像やまちづくりのコンセプト、取組方針を共有します。

土地利用のあり方や拠点やネットワークの形成方針に基づき、道路・公園等の都市基盤の充実や空き地等の活用方策、宅地利用の増進を図るための面的整備手法や規制誘導手法等の検討を進めます。

住民、事業者をはじめ、まちの関係者でまちづくりの方針を共有し、多様な主体の活躍により、復興まちづくりの取組を推進します。

具体の取組

□「人吉市まちなかグランドデザイン」に基づく地区間連携の強化

- ・人吉駅からのまち歩きのコース等を検討。
- ・桜の杜のイメージで1000本の桜を植樹する等歩いて楽しい景観を形成。
- ・新温泉・鶯温泉を含め、東西方向の散策路を整備する。
- ・東西方向に行き来できる小路や町家の中庭を再現。
- ・回遊性向上のため駐車場をまちなかの外郭に分散設置。
- ・青井阿蘇神社から発船場までの散歩道を整備。
- ・駅から歩けるまちをつくる。
- ・昔ながらの商店街を復活させる。

取組方針 11：まちなか居住の推進

公営住宅等の確保や空き家等のリノベーション等により、まちなか居住を推進し、各町の活性化につなげます。

まちなかの利便性や各町の特性を活かして若い世代や子育て世帯にとって魅力的な居住環境を提供することにより、移住者の増加を図ります。

具体の取組

□災害公営住宅等の導入検討（再掲）

- ・まちなか居住を実現する災害公営住宅等の整備を検討。
- ・地権者が土地を提供する代わりに災害公営住宅等へ入居できるようにしたり、住宅の共同化を検討。

取組方針 12：複合的な交流の場づくり

まちなかの賑わいづくりや交流の促進に向け、複合的な機能を持つ交流の場づくりに取り組みます。公園や図書館、子育て支援施設等の人々が集う複合的な機能や、城下町や人吉の歴史を感じられる交流施設の整備を検討します。

具体の取組

□複合的な交流施設の整備

- ・図書館、資料館（歴史・偉人等）、会議室、物販、飲食など複合的な施設の整備・誘致を検討。
- ・集客力のある施設や機能の検討
(例) カフェと図書館の融合した施設、店舗やマルシェを併設した施設、足湯や川の水を利用したミニプール、写真映えするスポットの設置など

取組方針 13：温泉の復活と温泉文化の継承

既存の温泉を活かし、市民が気軽に立ち寄ることができる温泉施設の復活と温泉文化の継承に取り組めます。

具体の取組

□温泉の活用方策の検討

- ・人吉らしさに合った温泉施設の検討。併設施設（資料館（歴史・偉人等）、食事処、カフェ、温泉カフェなど）の検討。
- ・銭湯再生の事業性や管理・運営方法の検討。
- ・「新温泉」を登録文化財にする。

取組方針 14：人が集い、過ごす風景の再生

まちの再生に合わせて、住民・来街者・観光客等がまちなかで過ごす風景の再生に取り組めます。

まちの歴史や温泉等の資源や、既存の建物やまちなみ等の空間を活かし、城下町・温泉街らしい景観の形成に取り組み、人吉らしい風情あるまちなみの形成を図ります。

具体の取組

□歴史的な建物や路地空間等を活かしたまちなみ形成

- ・印象的な建物や空間の活用。
- ・鍛冶屋町のまちなみを活かした施設の誘致。
(例) 温泉や旅館（施設とまちが連携した雰囲気づくり）、職人の工房等
- ・各町が連携したまちなみづくり。
- ・景観形成方針の明確化、建物の外観統一のルールづくり。

取組方針 15：球磨川を活かしたまちづくり

球磨川と共存してきた暮らしを見つめ直し、水害のリスクに向き合いながら、球磨川を活かしたまちづくりに取り組みます。

具体の取組

□球磨川を活かしたまちづくり

- ・川沿いに散歩道、石垣、ベンチ等の設置を検討。
- ・城見庭園の眺めを活かした取組、HASSENBA との連携方策を検討。
- ・城見庭園の活用（カヌー艇庫の移転改築、コミュニティ機能の追加による緊急避難場所の確保）。
- ・山田川沿いの建物を、テラス席のような形で川へ向いたつくりに変えていく取組の検討。
- ・自然素材を活用した空間整備（緑、自然素材、石垣等）。
- ・子どもが川で泳げる環境づくり（安全性を確保するルールを地域でつくる）。
- ・堤防を利用したトラック市の開催。

取組方針 16：面的なまちづくり方策の検討

まちの空洞化を防ぐため、建物解体後の空き地等を活かした市街地の面的な整備手法の導入を検討します。同時に地権者の意向把握や協議を進め、できるだけ早期に実現可能な手法を選択します。

具体の取組

□面的なまちづくり手法の活用検討

- ・道路・公園等の基盤や宅地を再整備する手法の検討。
- ・共同住宅や来街者向けの立体駐車場（垂直避難可能）の整備検討。
- ・地権者の意向調査（最優先）

取組方針 17：空き地の活用方策の検討

まちなかに賑わいを創出するため、空き地のコミュニティの場としての活用に取り組みます。併せて、低未利用地や今後発生する空き地をマネジメントする仕組みを検討します。

具体の取組

□空き地の活用促進とマネジメント方策の検討

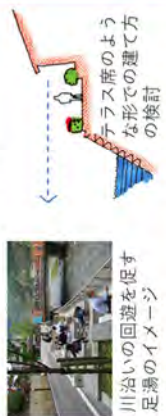
- ・低未利用地の有効活用を検討する住民・事業者等が主体となった社会実験（定期的なマルシェ等）の開催
- ・住民が憩い、観光客等にもインパクトのある活用方策の検討。
- ・まちの雰囲気にあう、活性化につながる施設の誘致。
- ・まとまった緑地の整備（緑地化、芝生化）。
- ・出身著名人によるオーナー制など、空き地を管理する仕組みの検討。

中心市街地地区 復興まちづくり計画【西側イメージ】

復興未来の杜エリア

- 青井の杜（古代中世/青井阿蘇神社周辺）
 - 城址の杜（中世近世/城址公園周辺）
 - 復興未来の杜（現在から未来/樹屋町、九日町等周辺）
- 3つの杜がグリーンインフラとなり回遊を促し環境共生型都市として未来型復興を図る

賑わい・観光・交流拠点の形成



川沿いの回遊を促す足湯のイメージ



復興型商店街の再生のイメージ



1階に・Uターン、被災商店主向け店舗、2・3階に住居ヤシエアハウスのイメージ

「ひかりの復興計画」夜間景観のイメージ



まちの玄関口としての景観形成



道路、建物が一体となった沿道景観形成のイメージ

雨水浸透緑地帯の導入



雨水が時間をかけ排水され豪雨時の被害軽減のイメージ

歴史的な町並みの形成



歴史的建物を活かした町並み形成

賑わい・観光・交流拠点の形成



賑治屋町の町並み形成

なごみ・生活支援拠点の形成



ひかりの復興計画による夜間景観イメージ

桜の植樹を検討



1000本の桜を植樹し自然と調和・共生した観光都市のイメージ

賑わい・生活支援拠点の形成



子育て世代支援+生活広場



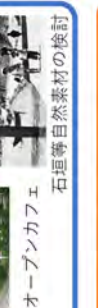
小さい子が安心して遊べる環境



趣味、部活動をまちなかで



コンテナマルシェ



青空図書館



石蔵の活用イメージ

球磨川プロムナード軸の形成



テラス型のオープンカフェ等を検討

石垣等自然素材の検討

癒やし・寛ぎ・宿泊拠点の形成



球磨川沿いの老舗ホテル・旅館を中心とした滞在型の癒やし・寛ぎ拠点を形成

賑わい・観光・交流拠点の形成



まちなかのポケットパークのイメージ

交流・文化・まちなか居住拠点の形成



中心市街地の新たな拠点となる緑豊かな図書館等のイメージ

賑わい・観光・交流拠点の形成



歴史的建物のあり方の検討

交流・文化・まちなか居住拠点の形成



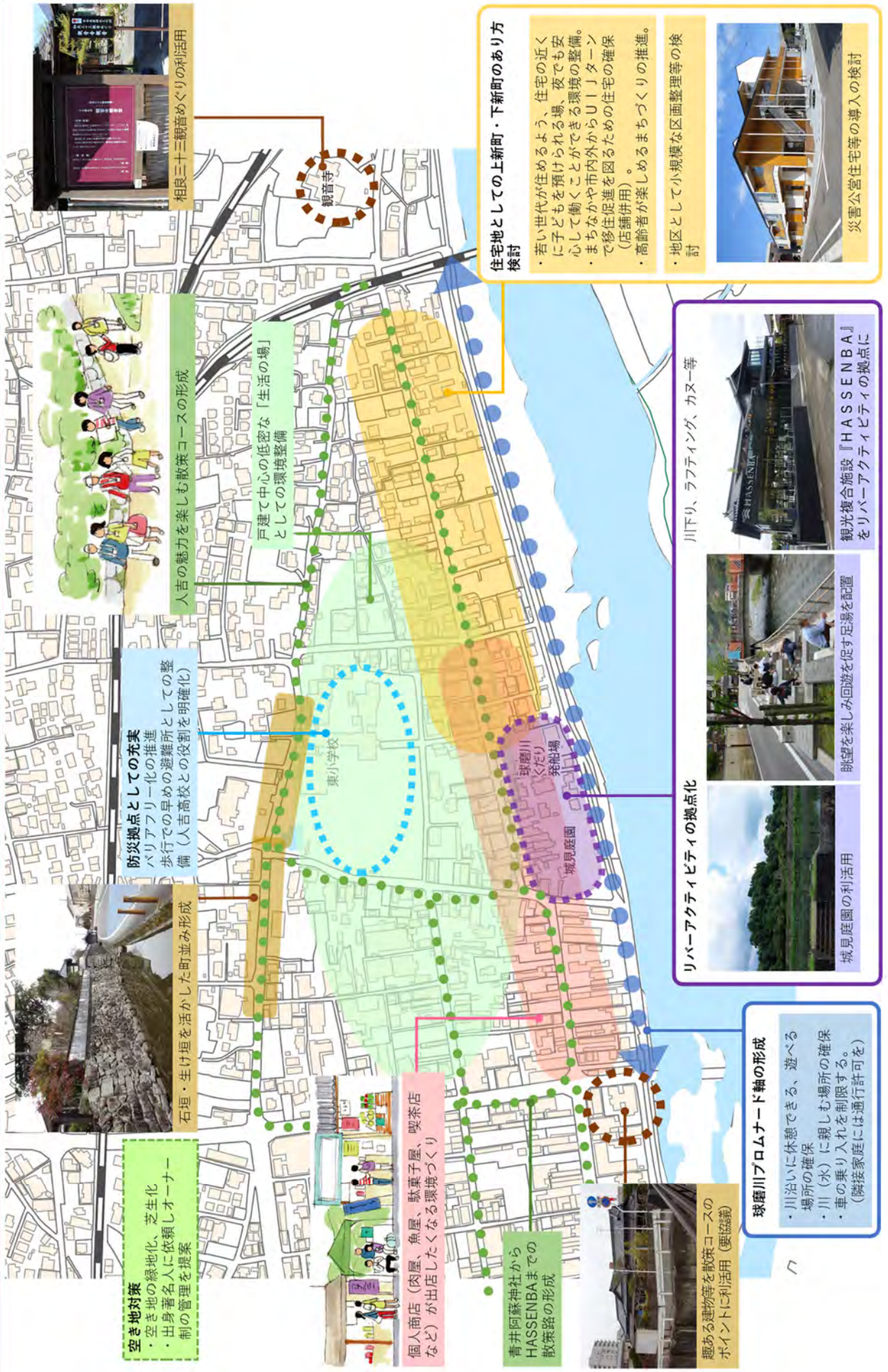
1階に・Uターン、被災商店主向け店舗、2・3階に住居ヤシエアハウスのイメージ

賑わい・観光・交流拠点の形成



地産産材を使用した災害公営住宅のイメージ

中心市街地地区 復興まちづくり計画【東側イメージ】



② 青井地区 復興まちづくり計画

対象地域

上青井町、中青井町、下青井町、駒井田町、城本町

青井地区は、中心地の一翼として、くらしの再建、コミュニティの再生や避難対策とともに、青井阿蘇神社を中心とした歴史文化を活かした賑わい形成を中心に、復興まちづくりを進めます。

（1）地区の復興まちづくりに向けた主な課題

取組の柱① 被災者のくらし再建とコミュニティの再生

住まいの再建

□住まいの再建と安全性の向上

○復興まちづくりの取組が進められる中、早期の住まいの再建や安全性の高い住まいの再建に関する支援策の充実が求められています。

地区別懇談会での主な意見

・国道445号の拡幅計画の内容や嵩上げの方針等を早く示してほしい。

コミュニティの再生

□地域コミュニティの再生

○被災により世帯数が減少する中、活動拠点である町内会館の復旧や、町内会コミュニティの再生が必要です。

地区別懇談会での主な意見

- ・町内会館を早く復旧したいが財源が厳しい。
- ・世帯数の減少により町内会の運営継続が懸念される。
- ・小学生～高校生の人数が減っており、祭りの際は他町内から手伝いに来てもらっている。

取組の柱② 力強い地域経済の再生

なりわいの再建

□なりわいの再建と賑わいの再生

○経済的な負担や後継者問題等により、商店等の再建に課題があります。個人のなりわいの再建や、まちぐるみの賑わいの再生に向けた取組が必要です。

地区別懇談会での主な意見

- ・商店街の集約化を考えられないか。
- ・なりわい再建支援補助金は、テナントオーナーによる改修には適用されないことがネック。

□観光資源の活用促進

- 青井阿蘇神社、温泉、SL、映画撮影現場等の観光資源を活かし、観光の復興のイメージづくりに取り組む必要があります。

取組の柱③ 災害に負けないまちづくり

避難対策

□安全な避難ルートの確保

- 避難場所・避難所への南北方向の避難路を確保するため、補助的な避難路整備が必要です。
- 人吉西小学校、球磨工業高校へ上る斜面地のルートの安全確保が必要です。
- 避難路の整備に当たっては、車でのスムーズな避難ができるような対策が必要です。

地区別懇談会での主な意見

- ・人吉西小への避難ルートは川・線路・崖に囲まれ、冠水しやすく問題が多い。

□避難場所や避難施設の確保・機能の改善

- 垂直避難や車の避難ができる、浸水しない避難場所・避難施設の確保が必要です。また、避難所におけるペットの受入れなど、機能や運営面の改善が必要です。
- 民間施設を活用した避難場所の確保には、所有者の意向確認や協力依頼が必要です。

□安全な避難の仕組みづくりと体制の強化

- 安全な避難を実現するためには、いち早く避難する心がけと事前の準備や、情報発信の工夫、要支援者への支援体制の充実が必要です。

地区別懇談会での主な意見

- ・一人暮らしの高齢者は自動車を所有しておらず、避難できない方が多い。町内の90%が浸水被害を受ける想定での体制検討が必要。
- ・夜間の避難対策も必要。
- ・避難のためのマニュアルやルールが必要。
- ・これまでの被災経験や日頃の訓練を活かしていくことが重要。

治水・土砂災害対策

□河川の氾濫対策

- 令和2年7月豪雨では、球磨川や山田川等の支川の外、平常時は水の流れない溝からも水が溢れ、住民に混乱をきたしました。治水対策を進め、河川の氾濫を抑える必要があります。

地区別懇談会での主な意見

- ・山田川から水があふれるとは思わなかった。水の出方が早く、国道が川になった。
- ・普段は何も流れていない溝から水が溢れてきた。いつもと違った。
- ・支流（山田川、鬼木川）の堤防の決壊が懸念される。
- ・堤防が高いと温泉街から川が見えなくなる。治水対策との両立が必要。

□急傾斜地周辺の安全確保

○高台にある避難場所・避難所への避難路の安全確保が必要です。

復興まちづくり

□地区の魅力の再生とさらなる向上

○青井地区に「戻ってきたい、行ってみたい、元気になってきた」と思える、地区の魅力や“らしさ”を高めるまちづくりが必要です。

地区別懇談会での主な意見

- ・人吉には喫茶店が少ない。
- ・青井地区は“観光”が第一。以前以上の魅力をつくっていかないと、観光客は戻ってこないのではないか。

□地域資源や特性の積極的活用

○青井阿蘇神社をはじめとした歴史的・文化的資源や球磨川との関係性など、地域資源や地区の特性を積極的に活かしたまちづくりが必要です。

地区別懇談会での主な意見

- ・青井阿蘇神社の復興が必要。
- ・人吉旅館は文化財として後世まで守っていききたい。
- ・JR肥薩線の早期復旧が必要ではないか。
- ・球磨川とは共存関係にある。

□空き地等の増大によるまちなか空洞化への対応

○人口や観光客等が減少し、空き地・空き家等が増大することにより、再建意欲の低下や地区の環境の悪化、経済活動の衰退等が懸念されます。空き地等を積極的に活用する仕組みづくりが必要です。

□地区にふさわしい国道のあり方検討

○将来を見据え、国道（都市計画道路）の幅員やルートのあり方等について検討していく必要があります。

地区別懇談会での主な意見

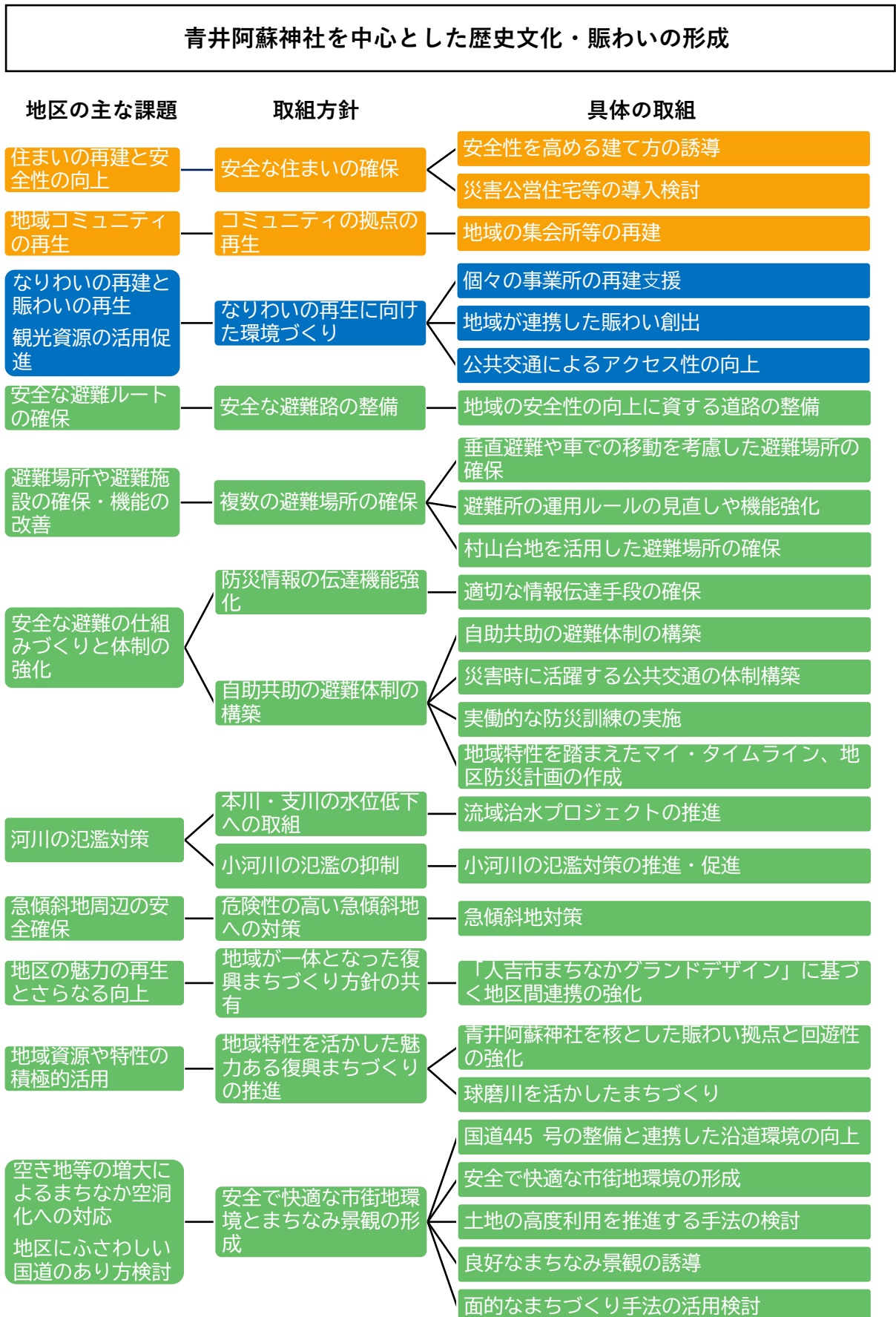
- ・歩道がない区間の歩行者の安全性が問題。
- ・道路拡幅が青井阿蘇神社周辺の賑わい低下につながらないよう留意すべき。

青井地区 現況・令和2年7月豪雨の被害・災害危険性



（2）課題解決のための取組

【復興まちづくりの目標】



取組の柱① 被災者のくらし再建とコミュニティの再生

住まいの再建

取組方針1：安全な住まいの確保

地区の特性や治水対策の状況、復興まちづくりの状況を踏まえ、安全な場所での再建や、住まいの安全性を高める修復・再建方策等の選択肢を検討します。

具体の取組

□安全性を高める建て方の誘導

- ・建物1階のピロティ化、想定浸水深以上の居室の確保。
- ・建物構造の耐水化。
- ・宅地の盛土・一部嵩上げ。
- ・共同での高い階層のビル建築。
- ・地区内移転を希望する戸建て住宅の売却希望地への移転や宅地嵩上げの検討。
(低地は、高い階層の共同住宅、非住居系建物、緑地等へ再配置を検討)

□災害公営住宅等の導入検討

コミュニティの再生

取組方針2：コミュニティの拠点の再生

町内会や地域コミュニティの活動を支える町内会館等の拠点施設の再建・修復等を行い、町内会を中心としたコミュニティの再生を図ります。

具体の取組

□地域の集会所等の再建

- ・町内会館の復旧とさらなる支援検討。
(駒井田町内会館は解体済、令和4年3月再建完了見込み)
(下青井町内会館の防災機能等強化の検討)

取組の柱② 力強い地域経済の再生

なりわいの再建

取組方針3：なりわいの再生に向けた環境づくり

個別の再建支援の他、まち全体のなりわいの再生に向け、まちなかの賑わい創出や観光のイメージづくりにつながる魅力的な環境づくりに取り組みます。

具体の取組

□個々の事業所の再建支援

- ・店舗の再建支援。
- ・テナント再建支援の検討。

□地域が連携した賑わい創出

- ・地域が連携し一帯となった賑わい形成。
- ・「人吉ひかりの復興計画」と連携した夜の散策ルートの整備。

□公共交通によるアクセス性の向上

- ・人吉駅とバスの提携による高速バス停留所の設置検討。
- ・JR 肥薩線の早期再開。

取組の柱③ 災害に負けないまちづくり

避難対策

取組方針4：安全な避難路の整備

浸水・土砂災害の危険性を踏まえ、避難場所までの避難路の整備・充実を図ります。整備内容の検討に当たっては、平常時の通学等の利用の安全性にも十分に留意します。

具体の取組

□地域の安全性の向上に資する道路の整備

- ・災害時の活動や避難に資する幹線道路交通処理の多重化。
- ・避難場所とまちをつなぐ避難路の充実。
（道路拡幅、浸水・排水対策、南北方向の新たな道路整備など）
- ・人吉西小学校、球磨工業高校へ上がる避難路の整備。
（車での移動・離合対策、複数ルートの確保、土砂災害対策など）
- ・子ども等の安全な通行に資する信号機や歩行スペースの確保。

取組方針5：複数の避難場所の確保

指定緊急避難場所の他、一時避難が可能な避難場所として、水害時の垂直避難場所や、高齢者等が避難所へ移動する前の一時集合場所となる公園等を整備・確保するなど、まちなかに複数の避難場所を確保します。

避難所については、避難後の不安を軽減するため、避難所の機能や環境、運営体制等を整えます。また、観光客の避難所利用やペットの同行避難を想定し、避難所施設の確保や運営方法の見直しを図ります。

これらの避難場所は、想定浸水深のレベルに応じ、避難のあり方を検討します。

具体の取組

垂直避難や車での移動を考慮した避難場所の確保

- ・避難所の建替え、浸水対策。（駒井田町公民館等）
- ・最寄りの垂直避難が可能な避難ビル等の確保。

（高層階のある建物への協力依頼、災害時利用に関する協定の締結、避難ビル指定、利用ルールの検討）

- ・新たな建物整備における避難空間の確保。（想定浸水深以上の高さに避難スペースを持つ避難ビル等の整備や民間誘導、駅周辺への立体駐車場の整備など）
- ・一時避難場所の拡充検討と自主避難所の覚書の締結。

避難所の運用ルールの見直しや機能強化

- ・観光客の避難場所の確保と受け入れのルールづくり。
- ・ペットの避難の受け入れ場所の確保とルールづくり。

村山台地を活用した避難場所の確保

取組方針6：防災情報の伝達機能強化

緊急時に正しい情報を迅速に、適格に伝えるための情報伝達手段を整えます。

具体の取組

適切な情報伝達手段の確保

- ・各世帯への防災ラジオの配布。（市より、令和3年6月から順次配布）

取組方針7：自助共助の避難体制の構築

住民が自身の身を守るための自助の取組や、地区内の共助の体制構築を行うための取組を促進します。要支援者の避難支援体制の強化に向けては、地域ぐるみで取り組み、リスクを分散する体制を構築します。

また、市内外の好事例を共有し、互いに学び合う環境を整えます。

具体の取組

□自助共助の避難体制の構築

- ・普段からの避難の準備や備えの実施
（例）自宅での垂直避難の備え、高い場所への大切な物の保管等
- ・町内の組織体制と避難支援体制の強化。
- ・自主防災組織の組織体制の強化。
- ・各取組の手法や参考事例の共有。

□災害時に活躍する公共交通の体制構築

- ・タクシー会社等との連携強化。

□実働的な防災訓練の実施

- ・実際に起こり得る状況を想定した、地区単位での実働的な避難訓練の実施。
（消防団との連携、夜の時間帯の訓練、企業等と連携した参加促進の呼びかけ等）

□地域特性を踏まえたマイ・タイムライン、地区防災計画の作成

- ・地区内での避難の仕方や連携体制の確認・検討
- ・避難のタイミングを判断する地域独自の“きっかけ”の検討。
- ・防災士や専門家等と連携した各地区の活動の支援の検討。
- ・地区の災害リスクを踏まえた、時系列での防災行動計画の作成。

治水・土砂災害対策

取組方針8：本川・支川の水位の低下への取組

広域的な流域治水プロジェクトと連携し、水位低下への段階的な対策の検討を行います。水辺の景観に留意した堤防のあり方等、まちの風情に適した安全確保の方策を検討します。

具体の取組

□流域治水プロジェクトの推進

- ・流域治水プロジェクトの推進（流水型ダム整備、市房ダム再開発、河道掘削、遊水地や田んぼダムの整備等）。
- ・景観に留意した堤防の検討（江戸時代の石垣、城壁風など）。
- ・支流の堤防の強化（山田川、鬼木川）。

取組方針9：小河川の氾濫の抑制

排水・浸透・貯留対策により、被害の軽減や避難時間の確保を図ります。

具体の取組

□小河川の氾濫対策の推進・促進

- ・放水路、浸透・雨水貯留施設等による内水対策。
- ・御溝川の開渠化（氾濫状況確認）。蓋掛け側溝の堆積土砂の早期点検と撤去。

取組方針10：危険性の高い急傾斜地への対策

暮らしの安全や避難時の安全確保のため、危険性の高い急傾斜地の対策を図ります。

具体の取組

□急傾斜地対策

復興まちづくり

取組方針11：地域が一体となった復興まちづくり方針の共有

地域が一体となって、人吉らしい復興まちづくりに取り組み、良好な市街地環境の形成とくらしの再建に取り組むため、まちの将来像やまちづくりのコンセプト、取組方針を共有します。

土地利用のあり方や拠点やネットワークの形成方針に基づき、道路・公園等の都市基盤の充実や空き地等の活用方策、宅地利用の増進を図るための面的整備手法や規制誘導手法等の検討を進めます。

住民、事業者をはじめ、まちの関係者でまちづくりの方針を共有し、多様な主体の活躍により、復興まちづくりの取組を推進します。

具体の取組

□「人吉市まちなかランドデザイン」に基づく地区間連携の強化

- ・住民・事業者等、まちの関係者が共有のビジョンを作成し、中心市街地地区、麓町・老神地区を含むまちなか全体の活性化にもつながるよう、相互に連携し、多様な主体の活躍により復興まちづくりを推進。

取組方針 12：地域特性を活かした魅力ある復興まちづくりの推進

青井阿蘇神社周辺は、観光・歴史文化拠点として、門前町としての歴史性や文化財、球磨川の水辺空間等を活かし、賑わい環境の魅力強化を図るとともに、中心市街地や人吉城址、人吉駅等との連携強化により、回遊性の向上に取り組みます。

また、良好な景観資源・眺望等を、次世代により良い形で引き継ぐため、まちなみ景観の維持・増進を図るとともに、地域の交流・コミュニティ活動の活性化につながるような場づくりに取り組みます。

具体の取組

□青井阿蘇神社を核とした賑わい拠点と回遊性の強化

- ・青井阿蘇神社の更なる拠点化と周辺文化財等の復旧支援。
- ・景観計画に基づく良好な景観形成の規制・誘導。
- ・青井阿蘇神社から球磨川方面の眺望や人吉橋から神社の森への眺望の確保。新たな建築物の高さ規制。
- ・蓮池や文化財等を含めた、一体的な賑わい空間の創出と回遊環境の魅力強化、交流拠点施設の整備検討。
- ・青井阿蘇神社周辺での公園・広場等の環境整備。
（「球磨絵図」を活かした魅力ある環境づくり、交流・イベント可能な場づくり）
（青井の杜と呼べるような、緑豊かな環境づくりを青井阿蘇神社周辺へ拡大）
- ・青井阿蘇神社と周辺の文化財や球磨川を結ぶ空間の門前町としての整備と雰囲気づくり。
- ・観光客が宿泊地を起点にまち歩きを楽しめる環境づくりや写真映えする演出。
（着物・浴衣・下駄利用や、水辺のライトアップなど）
- ・人吉駅周辺の鉄道を核としたまちづくり拠点の形成。
- ・新規出店希望者への空き地・空き店舗の情報共有・発信と誘致促進。
- ・まちなか駐車場の強化。（公共駐車場の導入含む）
- ・サイクリングロードの整備検討。
- ・拠点間を散策可能な回遊軸の充実。
（中心市街地や人吉城址との連携強化により青井地区全体が賑わうようなまちづくり）

□球磨川を活かしたまちづくり

- ・水辺を活かした空間づくり。
- ・水辺の景観を楽しめる環境づくり。

取組方針 13：安全で快適な市街地環境とまちなみ景観の形成

住まいの安全確保や避難路、避難場所等の整備と併せ、宅地利用の増進や快適な市街地環境の形成に資する道路や公園等の基盤整備に向けた検討を行います。

具体の取組

□国道 445 号の整備と連携した沿道環境の向上

- ・安全で歩きたくなる歩行空間の充実、禊橋周辺の門前町としての賑わい形成や神社西側の市街地の環境の向上等に資する幅員構成の検討、沿道の歴史文化資源を阻害しない道路区域、緊急輸送路として車が離合可能な車道の確保、沿道商業施設への配慮など。
- ・国道 445 号の整備と連携した沿道への店舗等の立地誘導。（1 階は店舗、2 階以上は住宅など）

□安全で快適な市街地環境の形成

- ・宅地利用増進、避難等に資する区画道路の整備検討。
- ・快適な市街地環境形成、避難等に資する公園等の整備検討。
- ・空き地等を活かした公園整備等による、高齢者の居場所づくり、子どもの遊び場、多世代交流の場づくり。
- ・まち歩きをしたりできるような道路整備や、交通規制による賑わい創出。

□土地の高度利用を推進する手法の検討

- ・空き地等の活用や土地の高度利用による、共同住宅、共同店舗、立体駐車場等（一部避難ビルを兼ねる）の整備検討。
- ・官民連携事業の創出検討。（民間活力を導入する手法や公共施設等の複合化など）

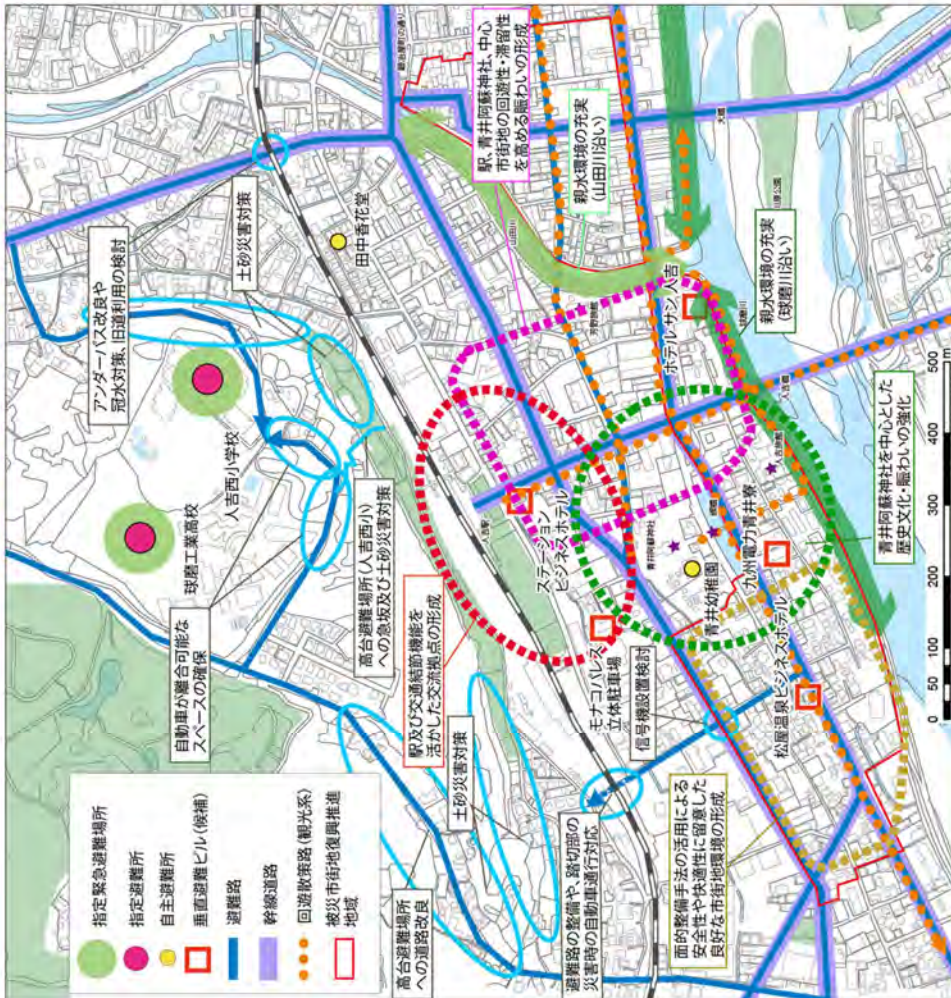
□良好なまちなみ景観の誘導

- ・地域特性を活かしたまちなみ景観の向上。
- ・まちなかの緑化。
- ・地区の魅力向上に資する建築活動等の規制誘導手法の適用検討。

□面的なまちづくり手法の活用検討

- ・安全で快適な市街地環境形成等に資する面的まちづくり手法（区画整理等）の活用検討。
（道路が狭い、接道上の課題がある、空き地が多い等の地区で有効）
- ・地区内移転を希望する戸建て住宅の売却希望地への移転に対する区画整理等の活用検討。

青井地区 復興まちづくり計画 【地区全体の将来像と復興まちづくりのイメージ】



青井地区の将来像(復興まちづくりの目標)

青井阿蘇神社を中心とした歴史文化・賑わいの形成

- 青井阿蘇神社を核として、多彩な歴史文化・自然を楽しめる賑わいあるまちづくり
- 暮らしの安心やコミュニティを協働で育むまちづくり
- まちなかの利便性を活かし、快適な市街地環境を育むまちづくり

復興まちづくり

駅及び交通結節機能を活かした交流拠点の形成

- ・JR肥薩線の早期再開
- ・高速バス停留所の設置
- ・駅周辺への立体駐車場の整備(垂直避難場所)
- ・広域玄関口としての歴史性や周辺の公園等を活かした交流環境の充実

駅、青井阿蘇神社、中心市街地の回遊性・滞留性を高める賑わいの形成

- ・人吉駅周辺(回避散策路)のまちなか景観の魅力強化(歩きたくなる景観の演出、景観計画に基づく良質な景観誘導の強化)

青井阿蘇神社を中心とした歴史文化・賑わいの強化

- ・通池や文化財を活かした“神社と一体的なやすらぎと賑わいの拠点『青井の杜』”の創出
- ・門前町らしい歴史性を感じられる広場等整備と、『球磨絵図』など歴史性の発信
- ・周辺の文化財等を活かした新しい環境づくり
- ・観光土産・歴史文化発信・観光交流体験等の拠点機能の強化
- ・球磨川とつながる参道整備と、まちなかを歩きたくなる回避散策路の充実(中心市街地や人吉城址を結ぶ多様な魅力ある回避軸の形成)
- ・国道445号の整備による、くまびら〜青井阿蘇神社周辺・発船場・城址等を結ぶ、観光客や市民等の散策・回避で賑わう、にぎわい・交流・連携軸の強化

安全性や快適性に留意した良好な市街地環境の形成

- ・国道445号の歩行空間等の充実
- ・避難路・避難場所の充実、宅地利用の増進につながる道路整備や公園等の充実
- ・計画的な市街地誘導とまちなか景観の向上、および面的整備手法の活用検討
- ・回避軸に沿った店舗等の日常生活利便施設の誘導
- ・地区内の継続居住意向を踏まえた住宅等用地の確保

親水環境の充実

- ・球磨川沿いや山田川沿いは、水辺の魅力を活かし親水空間と散策回避環境を充実

避難対策

垂直避難可能な避難ビルの確保

- ・高層階のある立体駐車場・ホテル・マンション等への協力依頼
- ・災害時利用の協定の締結、避難ビル指定、利用ルールの検討
- ・新たな建物整備での避難ビル化の検討

※避難ビルとは地区別懇談会意見に基づく候補案であり、今後施設内容や所有者意向等を踏まえつつ、候補施設の積算や拡大(新たな整備予定の建物含む)に向けた検討・調整を進めていきます。

住まい・生業再建

様々な避難対策

- ・被災した避難所の運営や浸水対策
- ・一時避難場所の拡充検討と自主避難所の見直し
- ・避難所への避難経路の確保
- ・防災情報の伝達機能強化
- ・自助共助の避難体制の構築
- ・地域特性を踏まえた地区防災計画の作成

治水・土砂災害対策

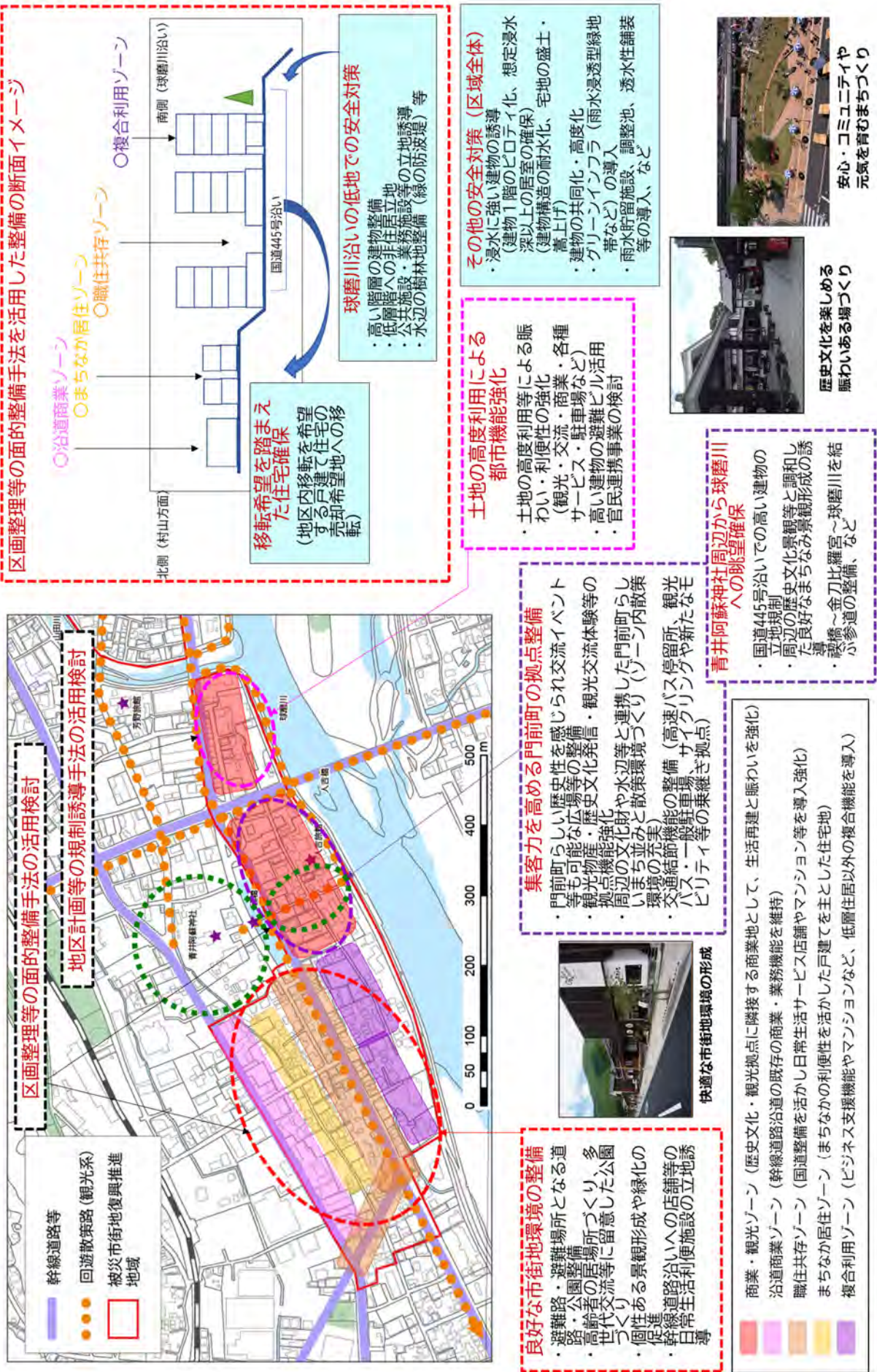
- ・流域治水プロジェクトの推進
- ・小河川の氾濫対策の推進・促進
- ・急傾斜地対策

まちなかの賑わいを高める環境づくり

- ・人吉ひかりの復興計画と連携した夜間景観を楽しむエリアの拡大
- ・駅周辺、青井阿蘇神社周辺、中心市街地、IC等が連携し、観光客等の公共交通利用や駐車・乗換等の利便性を高める交通環境の充実
- ・低地での土地利用活性化や中心市街地全体の中での賑わい機能の共存に留意した多様な機能の導入検討(業務系など)
- ・まちなかの空き家・空き地等を活用した定住環境の魅力向上(交流や憩いの場、パブリックスペース・緑地など)

青井地区 復興まちづくり計画

【面的整備手法の活用イメージ】



③ 麓・老神地区 復興まちづくり計画

対象地域

麓町、老神町、新町、田町、南寺町

麓・老神地区は、球磨川や胸川による浸水の危険性に備えて、安全な避難所・避難場所の確保や人吉城址周辺の活性化等に向けた取組を中心に、復興まちづくりを進めます。

（1）地区の復興まちづくりに向けた主な課題

取組の柱① 被災者のくらし再建とコミュニティの再生

コミュニティの再生

□地域の高齢化、空洞化への対応

○若い世代の住民が減少し、高齢者や空き家が増えていることから、高齢化や空洞化への対応が必要です。

地区別懇談会での主な意見

- ・田町に旧商店街の古い町並みが残っているものの、空き家が多い。
- ・城南家畜保健衛生所前の通りに空き地が増えた。

□昼間人口の増加への対応

○人吉医療センター等利用者の多い施設が立地しており、新市庁舎完成後はさらに昼間人口が増加することから、職員向けの駐車場等の確保が必要です。

地区別懇談会での主な意見

- ・現在、医療センター周辺の空き地を月極め駐車場として貸し出している土地が増えている。
- ・新市庁舎完成後は、駐車場が約500台不足するのではないかと懸念されている。

取組の柱② 力強い地域経済の再生

なりわいの再建

□人吉城址周辺の活性化

○復興まちづくりの取組と連携し、地域資源を活かした人吉城址周辺の活性化への取組が必要です。

地区別懇談会での主な意見

- ・現状では城址や人吉城歴史館に利用しにくい面がある。
- ・人吉の歴史を市民・観光客が学ぶ場所が必要。

取組の柱③ 災害に負けないまちづくり

避難対策

□安全な避難場所・避難ルートの確保

- 指定避難所である保健センターは胸川沿いに立地しており、施設までの道も狭いことから、安全な避難場所・避難ルートの確保が必要です。
- 胸川右岸は橋を渡って避難するのが危険なため、右岸側の避難所の確保が必要です。

□避難誘導體制の整備と仕組みづくり

- 令和2年7月豪雨では、発災状況の確認が遅れ、逃げ遅れが発生しました。高齢者が避難する手段の確保や、見守り・避難支援の体制強化が必要です。

地区別懇談会での主な意見

- ・町内会長だけが住民の避難誘導の役割を担うのは負担が大きい。
- ・町内会長の業務引継ぎの際、防災に関わる引継ぎが不十分。
- ・排水樋門の管理者が町内に状況を伝える仕組みがない。

治水・土砂災害対策

□球磨川本川と支川の合流部の氾濫対策

- 豪雨時は胸川から本川に水が流れ込みづらく、バックウォーターが発生しやすいため、氾濫対策が必要です。

地区別懇談会での主な意見

- ・排水ポンプだけでは排水しきれなかった。

復興まちづくり

□地域性を活かした復興まちづくり

- 被災により失われた人吉らしさや各町の独自性をより明確にし、復興まちづくりに活かしていく必要があります。

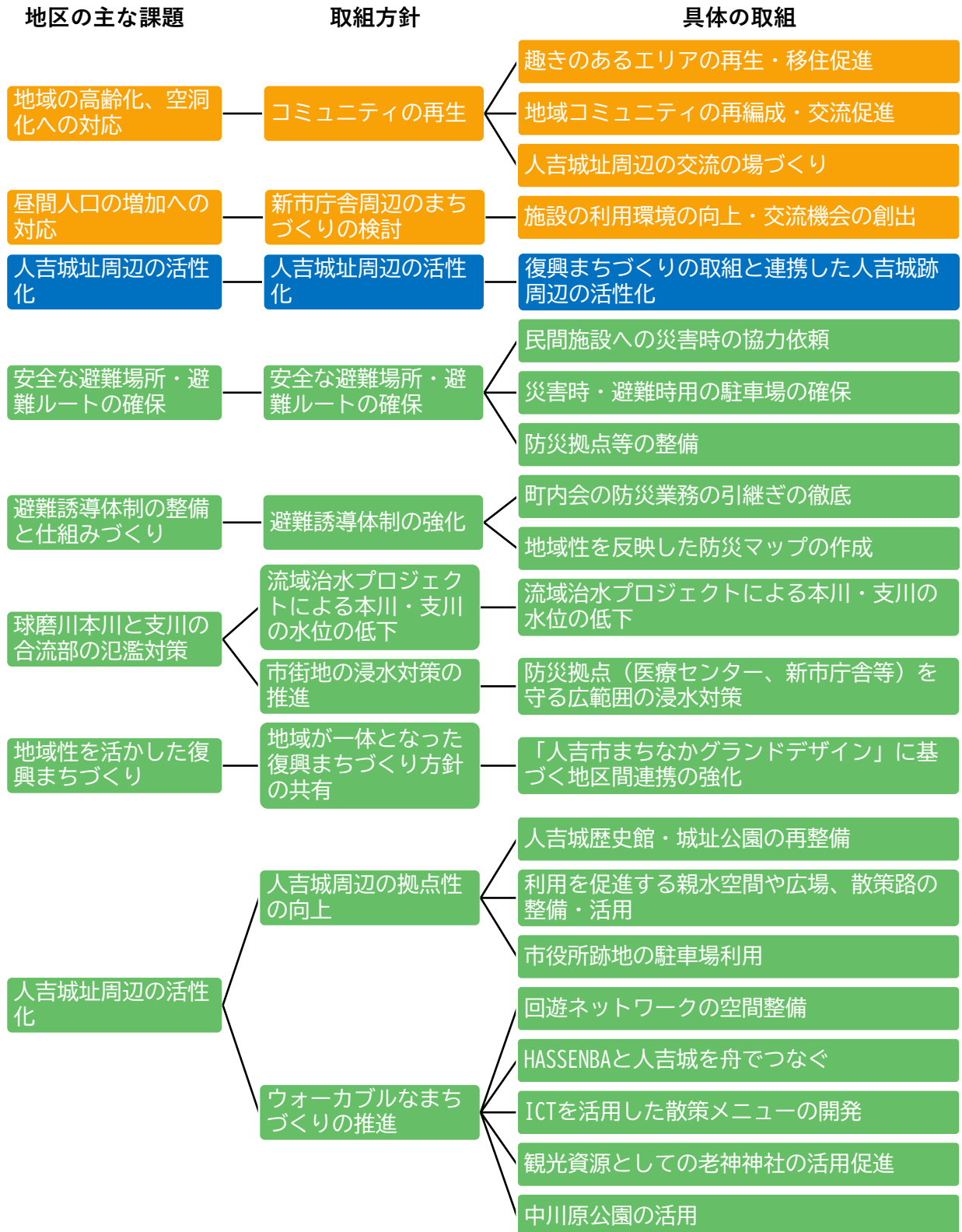
麓・老神地区 現況・令和2年7月豪雨の被害・災害危険性



（2）課題解決のための取組

【復興まちづくりの目標】

歴史と未来が共存するまちづくり



取組の柱① 被災者のくらし再建とコミュニティの再生

コミュニティの再生

取組方針1：コミュニティの再生

マンション居住者への町内会加入の呼びかけ等により、若い世代をはじめとした新住民の積極的な受け入れを促進します。また、地区内の空き家等を活用し、若い世代の入居・転入を促進します。

また、人吉城址周辺の空間を活用し、親子や高齢者が集えるような場づくりに取り組みます。

具体の取組

□ 趣きのあるエリアの再生・移住促進

・ 田町に残る旧商店街の古いまちなみを活用した古民家等のリノベーションを実施。

□ 地域コミュニティの再編成・交流促進

・ 南寺町・新町の町内会の統合を検討。

・ 麓町・南寺町の交流促進。

□ 人吉城址周辺の交流の場づくり

取組方針2：新市庁舎周辺のまちづくりの検討

人吉医療センターや建設中の新市庁舎等、施設利用者や従業者数が多い施設が集積していることから、施設の利用環境の向上や交流機会の創出に資するまちづくりの取組を検討します。

具体の取組

□ 施設の利用環境の向上・交流機会の創出

・ 職員向け駐車場の確保。

・ 新市庁舎周辺のまちづくりに向けた官民連携組織の立ち上げ。

・ 人吉橋沿線上の飲食店の出店促進（就業者、ファミリー向け）。

・ 温泉等を活用したイベントの再開（落語会等）。

取組の柱② 力強い地域経済の再生

なりわいの再建

取組方針3：人吉城址周辺の活性化

なりわいの再建や地域の活性化に向け、復興まちづくりの取組と連携し、人吉城址周辺の活性化に取り組みます。

取組の柱③ 災害に負けないまちづくり

避難対策

取組方針4：安全な避難場所・避難ルートの確保

安全な避難をするには、避難する時間帯やルート、移動手段等を考慮した判断が必要になります。

- ・ 胸川左岸の避難所は第一中学校を利用し、垂直避難場所は医療センターや裁判所、将来的には新市庁舎が候補となります。
- ・ 胸川右岸は相良神社、東林寺等を避難所として利用できるよう、協力を依頼します。
- ・ 麓地区の自主避難所は、相良神社を活用します。

具体の取組

□ 民間施設への災害時の協力依頼

- ・ 民間施設の災害時の避難所利用に係る協力依頼及び覚書等の締結（必要に応じて行政支援）。

【候補】相良神社、東林寺、瑞祥寺

□ 災害時・避難時用の駐車場の確保

【候補】永国寺、相良神社、球磨焼酎酒造組合、原城奥、東間小学校、華の荘リゾートホテル、九州道（人吉 IC～人吉スマート IC）

□ 防災拠点等の整備

- ・ 新市庁舎を防災拠点として指定。

取組方針5：避難誘導體制の強化

地区内の避難に係る体制を強化するため、地区住民の防災意識の向上や、町内会長の負担軽減・分散や避難誘導體制の強化に取り組みます。

具体の取組

□町内会の防災業務の引継ぎの徹底

- ・町内会長の引継ぎ時に、消防団が同席する等して防災業務の引継ぎを強化する。

□地域性を反映した防災マップの作成

- ・市の出前講座の活用や防災まち歩きにより、地区内の危険個所を確認し、各町内の詳細な防災マップを作成。
- ・高齢者・要支援者の連絡網・支援マップの作成。

治水・土砂災害対策

取組方針6：流域治水プロジェクトによる本川・支川の水位の低下

広域的な流域治水プロジェクトと連携し、水位低下への段階的な対策の検討を行います。水辺の景観に留意した堤防のあり方等、まちの風情に適した安全確保の方策を検討します。

具体の取組

□流域治水プロジェクトによる本川・支川の水位の低下

- ・流水型ダム整備、市房ダム再開発、河道掘削、遊水地整備等。
- ・胸川、球磨川沿いの越水対策（河道掘削等）。

取組方針7：市街地の浸水対策の推進

防災拠点のあるエリアの安全確保を図るため、面的な排水対策について検討・推進します。

具体の取組

□防災拠点（医療センター、新市庁舎等）を守る広範囲の浸水対策

- ・防災拠点のあるエリアの面的な排水対策。
- ・老神排水樋門の機能改善。

復興まちづくり

取組方針8：地域が一体となった復興まちづくり方針の共有

地域が一体となって、人吉らしい復興まちづくりに取り組み、良好な市街地環境の形成とくらしの再建に取り組むため、まちの将来像やまちづくりのコンセプト、取組方針を共有します。

住民、事業者をはじめ、まちの関係者でまちづくりの方針を共有し、多様な主体の活躍により、復興まちづくりの取組を推進します。

具体の取組

□「人吉市まちなかグランドデザイン」に基づく地区間連携の強化

- ・住民・事業者等、まちの関係者が共有のビジョンを作成し、中心市街地地区、麓町・老神地区を含むまちなか全体の活性化にもつながるよう、相互に連携し、多様な主体の活躍により復興まちづくりを進める。

取組方針9：人吉城址周辺の拠点性の向上

市民、観光客が集う城址公園を目指し、人吉城歴史館や周辺環境の再整備の他、ふるさと歴史の広場等の交流空間の活用等に取り組みます。

具体の取組

□人吉城歴史館・城址公園の再整備

- （例）観光情報センター、カフェ、東屋としての機能の整備、地下展示の再開、入場料の無料化
- ・収蔵品を安全な場所へ保管（移動）。

□利用を促進する親水空間や広場、散策路の整備・活用

- ・ふるさと歴史の広場を川と親しむ場として活用。活用に必要な整備を実施。
（例）イベント会場としての活用、定期的な朝市等の実施、キッチンカーの乗入促進、レストラン・茶屋の出店、城壁下の散策道整備等
- ・城址公園の整備。
（例）取付道路、キャンプ場の整備
- ・城址公園の利用促進。
（例）二ノ丸等を会場としたイベントなど
- ・城址内、ふるさと歴史の広場内の街灯再整備。

□市役所跡地の駐車場利用 ※最優先で取り組む

取組方針 10：ウォーカブルなまちづくりの推進

地区の拠点となる人吉城址周辺とまちなか全体とのネットワーク形成に向け、回遊性を向上させる空間整備や仕組みの導入等に取り組みます。

具体の取組

□回遊ネットワークの空間整備

- ・大橋から水の手橋間の、夜のそぞろ歩きができる空間整備。
- ・ウォーキング、ランニングコースの整備（歩道の拡幅等）。
- ・永国寺から大手門にかけた道路の桜並木の整備。
- ・「人吉ひかりの復興計画」に基づく魅力発信

□HASSENBA と人吉城址を舟でつなぐ

□ICT を活用した散策メニューの開発

- ・タブレット端末等での CG 再現。
- ・発掘調査・研究が進められる中世人吉城の将来的な活用。

□観光資源としての老神神社の活用促進

- ・神事の活性化等（※要協議）。

□中川原公園の活用

- ・人が集う場所としての中川原公園内の再整備（人吉城歴史館側から川を渡って公園にアクセスできる工夫など）

麓・老神地区 復興まちづくり計画【地区整備方針・避難ルート図・コミュニティの再生】

